

**神戸ビエンナーレ2015**  
**検証報告書**  
**(要約版)**

**2016年4月**

**神戸ビエンナーレ2015 企画委員会**

## I 開催結果

～港で出合う芸術祭～ 神戸ビエンナーレ2015の開催結果は下記のとおりである。

### (1) 名 称

～港で出合う芸術祭～ 神戸ビエンナーレ2015

### (2) 基本方針 ～アートを活かしたまちづくり（文化創生都市の実現）～

神戸ビエンナーレ2015では、震災20年を乗り越えてきた神戸の文化の力を結集させ、このまちが育んできた進取の気風によって、アートの既成概念を打ち破ることを目指します。私たちは、新たなステップへとアートの世界を飛躍させることで、日本の文化の驚くべき包容力と海外に開かれた多様性を明らかにし、みなとまち神戸から広く国内外に未来に発信しようとしています。

また、このまちに誇りと愛着を有する市民ひとりひとりの意志と行動によってこそ「芸術文化の薫りあふれるまち」が作りあげられることを、この祭典をとおして実証し、感動と喜びに満ちた文化創生都市を目指していきます。

### (3) 会 期

2015年9月19日（土）～11月23日（月・祝）

※東遊園地会場…9月19日（土）～11月1日（日）

### (4) 会 場

○メリケンパーク・ハーバーランド・元町高架下エリア

○東遊園地・フラワーロードエリア

○ミュージアムロードエリア（兵庫県立美術館、横尾忠則現代美術館、BBプラザ美術館）  
他

### (5) 開場時間

○メリケンパーク 11:00～16:00 ※土日祝 ～17:00

○ハーバーランド 設置場所の施設に準じる

○元町高架下 12:00～18:00

○東遊園地 日没～21:00 ※夜間展示のみ

○兵庫県立美術館、横尾忠則現代美術館、BBプラザ美術館

10:00～18:00 月・祝翌休 ※横尾忠則現代美術館 金土 ～20:00

### (6) 入場チケット

(前売) ○全会場セット券 1,700円

(当日) ○全会場セット券 2,400円

○メリケンパーク・東遊園地セット券 1,000円

○メリケンパーク 800円 東遊園地 500円 兵庫県立美術館 1,000円

横尾忠則現代美術館 700円 BBプラザ美術館 400円

### (7) テーマ

スキ。[su:ki]

神戸が、スキ。

新しいもの、優れたもの、愛らしいものに私たちは心惹かれます。好奇心は気持ちを弾ませ、さまざまな芸術文化を花咲かせます。好みは人それぞれの趣向(おもむき)ですが、この直感には素直なところが現れています。そして、日本人は、この「好き」の語感も好み、日常に親しんできました。紙

を漉(す)き、土地を鋤(す)き、髪を梳(す)き、隔てを透(す)く…。櫛(くし)や鍬(すき)や柵(さく)などで、乱れたものを整えたり、余分なものを省いたり、空(す)かせて通りを良くするのです。

この生気を吹き込む軽(かろ)みと洒脱(しゃだつ)さは、多くの数寄者(すきしゃ)を生み、自身の感性を見極めるとともに、相手の好みを慮(おもんば)かり、時にはスキを与える美德さえも”もてなし文化”として育んできたのです。さまざまな価値や表現が「さく」今日、お洒落(しゃれ)な都・神戸で、心おきなく大切な「スキ。」と出会い遊びましょう。

## (8) 来場者数

383,339人

	(2015)	(2013)	(2011)
・総来場者数	383,339人	369,455人	242,766人
<b>【主な会場別来場者数】</b>			
・メリケンパーク	116,326	132,959	81,628 *1
・ハーバーランド (グリーンアート展)	82,847	90,268 *2	54,019
・元町高架下	30,341	50,741	55,240
・東遊園地	33,780		
・ミュージアムロードエリア (兵庫県立美術館、横尾忠則現代美術館、BBプラザ美術館)	41,459	28,545	16,106 *3

\*1：神戸ハーバーランド・ファミリオ、ポーアイしおさい公園

\*2：中突堤中央ターミナル (かもめりあ) \*3：兵庫県立美術館のみ

## (9) 主 催

神戸ビエンナーレ組織委員会、神戸市

## (10) 共 催

兵庫県

## (11) 後 援

兵庫県教育委員会／神戸市教育委員会／朝日新聞社／朝日放送／NHK神戸放送局／MBS／関西テレビ放送／K i s s FM KOBE／神戸新聞社／産経新聞社／サンテレビジョン／日本経済新聞社／毎日新聞社／読売新聞神戸総局／読売テレビ／ラジオ関西 (五十音順)

## (12) 助 成

文化庁 99百万円

## (13) 総事業費 (見込)

292百万円	財源内訳	神戸市補助金	250百万円 ※
		チケット収入	26百万円
		コンペ収入	6百万円
		その他	10百万円
		※補助金の原資に寄付金(38.3百万円)を含む	

以下、事業終了後、事業の成果を検証する事務を担う企画委員会（神戸ビエンナーレ組織委員会規約第10条第1項第2号\*）は、「神戸ビエンナーレ2015 事業計画」に基づいて実施した事業について、項目ごとに、来場者アンケートや出展作家アンケート、審査員の意見を基にその成果の検証を行う。

\*神戸ビエンナーレ組織委員会規約

第10条 企画委員会は、次に掲げる事務を行う。

- (1) 略
- (2) 事業終了後、事業の成果を検証する。

\*企画委員名簿は末頁参照

## II 基本方針～アートを活かしたまちづくり（文化創生都市の実現）～の検証

神戸ビエンナーレは、2004年の「文化創生都市宣言」を受け、神戸の芸術文化の更なる振興を図るとともに、まちの賑わいと活性化につなげることを目的とし、「まちづくり」とそれを担う「人づくり」を目標に、2007年から2年に1度開催してきた。

アートを活かしたまちづくりという基本方針のもと、国際貿易港として国内外から多様な文化を受け入れてきた神戸らしい取り組みとして、「ビエンナーレ＝選別された作家による最先端の現代アートの展示」との考え方のもとに国内外で開催されている他の芸術祭とは一線を画し、当初よりその独自性を発揮してきた。

これまでは、4～5つの基本理念を設定してきたが、神戸ビエンナーレ2015では、以下のように1つにまとめて、コンセプトを明確にした。

神戸ビエンナーレ2015では、震災20年を乗り越えてきた神戸の文化の力を結集させ、このまちが育んできた進取の気風によって、アートの既成概念を打ち破ることを目指します。私たちは、新たなステップへとアートの世界を飛躍させることで、日本の文化の驚くべき包容力と海外に開かれた多様性を明らかにし、みなとまち神戸から広く国内外に未来に発信しようとしています。

また、このまちに誇りと愛着を有する市民ひとりひとりの意志と行動によってこそ「芸術文化の薫りあふれるまち」がつくりあげられることを、この祭典をとおして実証し、感動と喜びに満ちた文化創生都市を目指していきます。

### (1) 多ジャンルにわたる企画展示

他都市の芸術祭が、現代アートを中心とした展示を行っているのに対して、神戸ビエンナーレでは、「コンペティション部門」と神戸の芸術文化の力を発揮する「神戸力発信部門」に分け、ジャンルを現代アートに限らず、コミックやアニメ、ゲームといったサブカルチャー、神戸ビエンナーレオリジナルの取り組みであるアートインコンテナや生きた根付の植物を使ったグリーンアート、いけばな、書、工芸などの伝統文化等から音楽まで、あらゆるジャンルを取り入れてきた。今回も20を超える企画展示を市内3つのエリアで開催したが、これほど多くの取り組みを行う芸術祭は他には見られない。来場者からも「一般的なアート以外にも書やいけばながあるのがいい」「幅広いアート作品の展示により、それまで関心のなかった分野に対して興味を持つよいきっかけとなった」「さらに規模を拡げてさまざまなアーティストの作品を見せてほしい」といった声が聞かれた。

その一方で、展示作品に関しては「エンタメ作品ばかりで、現代アートの要素が少なすぎる」「もう少し統一感があってもいいのではないか」といった声もあった。

## (2) コンペティションの実施

神戸ビエンナーレは、招待作家中心ではなく、新進アーティストの発掘・育成を目的としたさまざまなコンペティションを中心に据えているのも大きな特徴である。コンペティションに応募資格はなく、プロアマ、専門分野は問わず、開かれたものとなっている。今回は7つの分野でコンペティションを実施した結果、海外を含め、計681作品の応募があり、116作品が入賞・入選となった。また、若手アーティストの発表の機会ということでは、前回に引き続いて『大学作品展』を実施し、近畿圏を中心に12大学15ゼミが参加した。「海外の作家、学生や市民の作品もあり、プロだけでなく一般市民の作品も展示されていることもよいところであると思う」「多くの人々が参加していることから、各々の価値観を共有する貴重な機会になっている」といった来場者の感想は、こういった取り組みを受けたものである。また、プロアマを問わないコンペティション方式については、これまでも「作品のクオリティが低い」「作品の耐久性に問題がある」との意見があったが、5回目を迎えた今回は、神戸ビエンナーレでの発掘・育成の成果として、現在活躍中の過去の入賞作家を招待したことで、一定の改善がみられた。

## (3) 多くの会場と多様な展示方法

神戸ビエンナーレでは、メイン会場の他にも多くの無料会場を設けている。今回もメリケンパーク会場、東遊園地会場、ミュージアムロードの3美術館だけでなく、ハーバーランド umie、中突堤中央ターミナル（かもめりあ）、元町高架下、市役所市民ギャラリーなど、多くの無料会場を設定したことにより、市民をはじめ多くの人々が身近にアートに触れるきっかけとなった。展示方法については、前回までは、主に海上コンテナを利用した展示を行ってきたが、今回は大きく転換した。初めての取り組みとして、東遊園地での夜間みの展示、メリケンパークでの大型テントの活用、高架下でのいけばな展など、自由かつ柔軟な発想で作品展示を行った。一方で、今回も展示会場の分散化について、「会場が分かりにくい」との意見が来場者からだけでなく出展作家からも聞かれた。「会場間の距離が中途半端に遠い」との指摘もあったが、今回はシャトルバスを運行しなかったこと、会場間のアクセスについてはモデルコースも作ったものの、わかりやすく情報発信できていないとの指摘もあり、来場者サービスという点で課題が残った。

## (4) 他の芸術祭との交流・連携

海外については、これまでも、韓国の光州ビエンナーレや友好都市である中国・天津市とビエンナーレをきっかけとした交流を行ってきたが、今回は、兵庫県下の他の芸術祭との連携により、プレイベントを含めて、各芸術祭ゆかりのアーティストの作品展示や情報発信を行った。近隣の芸術祭との間で、広報 PR 等での一般的な連携だけではなく、作品出展も含めた交流・連携を行ったことも神戸ビエンナーレの拡がりや寛容性を示す取り組みとなった。

神戸ビエンナーレ2015では、基本方針を受けて、上記のような既成概念に囚われないさまざまな取り組みを行ったが、その結果、来場者からは、

「場所が開かれ、展示の機会も広く開かれており、訪れる人にとってもアートをより身近に感じるきっかけとなるように思う」

「一般的な展覧会では、これほど人とアートとの距離感を縮めることはできないだろう」

「多くのジャンルや多様な展示形態、国内外の作家の作品など、神戸という地域が持っている多様性や懐の深さを感じることができた」

などの意見が聞かれた。

また、2014年10月26日に東京都美術館で開催したイベントにおいて、神戸ビエンナーレも加盟（2014年～）する国際ビエンナーレ協会（International Biennial Association）会長のYong-Woo Lee氏は、神戸ビエンナーレを次のように評した。

「神戸の震災後の文化創生都市づくりと非常にマッチングしており、世界のあらゆるビエンナーレの中でも、これほど作品と市民との距離が近い芸術祭は他にない」

「良し悪しを語る芸術から離れて、市民に優しいビエンナーレを作っている神戸ビエンナーレが、現代美術に執着的な世界の大半のビエンナーレに対し、相当な影響を与える可能性があるとは考えています」

まさに、他のビエンナーレ・トリエンナーレなどの芸術祭を範としない神戸ビエンナーレの特徴を端的に表したものである。

これらのことから、神戸ビエンナーレ2015では、神戸の芸術文化の多彩性、多様な価値の受容性を多くの来場者が感じ、基本方針の内容を実現することに、より近づくことができたものと思われる。

以下の検証の詳細は、報告書P5～P27を参照

### Ⅲ 実施事業

#### 1. ～市民とともに作りあげる～ 交流・発信部門（報告書P5～P7）

- (1) 「神戸ビエンナーレCheers（チアーズ）」の活動
- (2) 「神戸ビエンナーレ学校」の開催
- (3) 「神戸ビエンナーレフレンズ」による発信
- (4) 交流の場の提供

#### 2. ～新進のアーティストを発掘・育成する～ コンペティション部門（報告書P7～P12）

- (1) アートインコンテナ国際展【東遊園地】
- (2) しつらいアート国際展【メリケンパーク】
- (3) ペインティングアート展【メリケンパーク】
- (4) グリーンアート展【ハーバーランド】
- (5) 創作玩具国際展【メリケンパーク】
- (6) コミックイラスト国際展【メリケンパーク】
- (7) 現代陶芸展【BBプラザ美術館】

#### 3. ～神戸の芸術文化の力を発信する～ 神戸力発信部門（報告書P12～P19）

- (1) メリケンパーク・ハーバーランド・元町高架下エリア  
東遊園地・フラワーロードエリア
- 海外招待作家展【メリケンパーク】
  - 国内招待作家展【メリケンパーク・東遊園地】
  - 文化庁メディア芸術祭受賞作品展【メリケンパーク】
  - 書道展【メリケンパーク】
  - イスラエル書道家による作品展【メリケンパーク】
  - 障がい者公募作品展（ハートでアートこうべ2015 入選作品展）【メリケンパーク】
  - 工芸展【メリケンパーク】
  - 大学作品展【メリケンパーク】
  - アートde元気ネットワーク作品展【メリケンパーク】
  - いけばな未来展・野外展【元町高架下・メリケンパーク】

(2) ミュージアムロードエリア

- 「ニッポンのマンガ\*アニメ\*ゲーム」展【兵庫県立美術館】
- 開館3周年記念展 横尾忠則 続・Y字路【横尾忠則現代美術館】
- 兵庫・神戸の仲間たち展【BBプラザ美術館】

(3) まちなか

- まちなかコンサート
- まちなかアートギャラリー

(4) その他 神戸力発信部門

- TodaysArt. JP KOBE 2015
- 沖縄の日「サウンドオブ琉球～世は稔れ～」
- 神戸アートマルシェ2015
- ふれあいの祭典 兵庫県いけばな展
- めぶくアート展 神戸+秋田・関西・気仙沼・NY・仙台・石巻
- 成田一徹切り絵展
- こうべ市展 市長賞作品展2015
- 神戸ビエンナーレ2015 フォトコンテスト
- お菓子でアートウォーク
- Site Specific Dance Performance #5 サン=サーンス作曲「動物の謝肉祭」

#### 4. 連携事業・協賛事業（報告書P20～P21）

(1) 連携事業

- LIFE IS CREATIVE 展 高齢社会における、人生のつくり方。
- アート de 元気ネットワーク推進会議
- 六甲ミーツ・アート 芸術散歩2015
- 第60回 CWAJ 現代版画展 神戸展

(2) 協賛事業

### IV 管理・運営事項

#### 1. 組織体制（報告書P21）

- ・組織委員会 …………… 顧問 3名、会長 4名、委員 38名、監事 2名
- ・企画委員会 …………… 委員長、副委員長、委員 8名
- ・アドバイザーメンバー …… 特別アドバイザー10名、参与 2名
- ・ボードメンバー …………… 総合プロデューサー、アーティスティックディレクター 2名、  
エグゼクティブディレクター 4名
- ・ディレクター …………… 32名

#### 2. 広報・宣伝（報告書P21～P24）

(1) デザイン

テーマ「スキ。[su:ki]」（デザイナー：大野好之氏）

チラシ・ポスター、グッズ、看板などで統一したデザインで広報PRを展開。

(2) チラシ・ポスター・街頭宣伝物等

チラシ・ポスター掲示

市内施設、自治会や商店街、車内吊りや駅貼り、全国の美術館、美術系大学等

街頭宣伝物

花時計デザイン、主要幹線でのバナー掲出、市役所庁舎内横断幕、新神戸駅と三宮交差点での大看板、花時計ギャラリー、そごう・大丸での懸垂幕

三宮センター街やハーバーランド等でのプロモーションビデオの放映  
ミュージアムロードでのバナー掲出、さんちかやフラワーロードでの案内表示、  
三宮センター街東通商店街での横断幕の掲出など

#### 招待作家作品のPR展示

さんちか夢広場、三宮中央通り地下通路、商業施設「HDC 神戸」、須磨海浜水族園、  
神戸三宮フェリーターミナル

#### (3) 公式ホームページ

■ホームページユーザー訪問回数(会期中) 148,292回(前回 184,621回)

#### (4) 公式 Facebook 等

■公式 Facebook 「いいね」数 3,104 (終了翌日 11月24日)(前回 1,974: 終了日 2013年12月1日)

■公式 Twitter フォロワー数 5,809人(終了翌日 11月24日)(前回ピーク時 4,710人: 2013年11月22日)

#### (5) テレビ・新聞・雑誌媒体等

■テレビ・ラジオ等放送 29番組(前回 37番組)

■新聞・雑誌等記事・広告記事 188記事(前回 222記事)

#### (6) 公式ガイドブック

美術手帖と提携して公式ガイドブックを8月末から全国の主要書店で販売

#### (7) プレイベント

・神戸ビエンナーレ2015 第1回公開シンポジウム+作品募集説明会

■開催日 2014年10月26日

■会場 東京都美術館 ■来場者数 150人

・神戸ビエンナーレ2015 第2回公開シンポジウム

■開催日 2014年12月17日

■会場 湊川神社 楠公会館 ■来場者数 150人

・新長田アートプロジェクト

■期間 2015年1月10日~2月11日

■会場 大正筋商店街(アスタくにつか) 空き店舗5区画

■主催 アート de 元気ネットワーク推進会議/神戸ビエンナーレ組織委員会

■来場者数 3,000人

### 3. 会場の設営と運営(報告書P24~P26)

#### (1) 会場設営

##### 【メリケンパーク会場】

前回のコンテナから大型テントを利用した作品展示に変更し、コンテナ展示での暑さや雨天時など鑑賞環境の課題を解決した。大型テント5張の内3張りをデッキで繋ぎ、一体感を出すとともに、来場者の移動しやすさに配慮した。また、前回東西2か所にあった入場ゲートを北側1か所にし、運営の効率化を図った。

■テント面積 合計 2,205 m<sup>2</sup> (480 m<sup>2</sup>・450 m<sup>2</sup>×2・375 m<sup>2</sup>・450 m<sup>2</sup>)

(2013 コンテナ面積 合計 1,813 m<sup>2</sup> (展示コンテナ 40ft:57基・20ft:8基))

##### 【東遊園地会場】

東遊園地内にコンテナを設置し、アートインコンテナ国際展の作品を展示した。コンテナ上部には4台の大型プロジェクターを設置し、コンテナの側面4か所に招待作家の映像作品を投影した。

無料エリアでは入賞作家招待作品展の6作品を展示したが、一部の作品は、フラワーロードから東遊園地に至る来場者誘導となるよう配置し、また、東遊園地内の樹木や既存の彫刻に「光の演出」をすることにより展示会場周囲の照明効果を上げた。

■コンテナ数 合計 21基 (展示コンテナ 40ft:15基、倉庫他コンテナ 20ft:6基)



### 【その他会場】

しつらいアート国際展については、メリケンパークの無料エリアの他、ハーバーランド会場からメリケンパーク会場入場ゲートまでの導線上にも設置した。

グリーンアート展会場のハーバーランド umie については、商業施設のため、施設利用者の通行や店舗の営業に支障のない設置場所の選定を行った。

いけばな未来展・野外展会場となった元町高架下については、所有者（JR 西日本）と協議しながら、作品を設置するための立方体（単管組み：3m×3m×3m）を設置した。

## (2) サイン

### 【メリケンパーク会場】

統一デザインによる大型サインの設置、案内誘導サインやバナーの設置による来場者の誘導、ビエンナーレ開催の雰囲気づくり、有料エリア内での会場マップの配布、大型テント入口各所での立て看板による会場マップ設置

### 【東遊園地会場】

コンテナ外壁面および既設の天井トラス部への大型のサイン設置、夜間照明

最寄駅からの導線上にある地下通路での吊サインや壁面サインの設置、市役所庁舎での横断幕設置、歩道の街路灯の照明と一体的なサインの設置による、案内誘導およびビエンナーレ開催のアピール

### 【その他】

ビエンナーレ全体として一体感が出るよう、メリケンパーク、東遊園地以外の会場における統一デザインによる表示

## (3) 会場運営

メリケンパーク会場、東遊園地会場、ハーバーランド会場、元町高架下会場に券売・改札業務（東遊園地、メリケンのみ）および管理、案内・誘導業務を行うスタッフを配置

メリケンパーク会場内にフードコートを設け、公募により選定した事業者による会期中の全日、飲食物の提供、物販コーナーでのビエンナーレグッズや土産物の販売

## 4. 事業収入の確保（報告書 P 27）

文化庁の文化芸術振興費補助金：99 百万円（国庫補助金）

（「平成 26 年度地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ」

「平成 27 年度文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業」）

寄付金：38 百万円（63 社・団体等）

その他、入場料収入、コンペティション審査料など

## V 総括

神戸ビエンナーレは、コンペティション方式による新進アーティストの発掘・育成とともに、現代アートに特化せず、伝統芸術やポップカルチャーまで、「神戸らしい」多様で進取なアートを取り上げることで、市民生活に近く、他では見られないビエンナーレ（芸術祭）として進化し続け、多くの人が拡がりあるアートの魅力に触れ、楽しんできた。

このような神戸ビエンナーレの特徴は、「神戸の震災後の文化創生都市づくりと非常にマッチングしており、世界のあらゆるビエンナーレの中でも、これほど作品と市民との距離が近い芸術祭は他にない」「良し悪しを語る芸術から離れて、市民に優しいビエンナーレを作っている神戸ビエンナーレが、現代美術に執着的な世界の大半のビエンナーレに対し、相当な影響を与える可能性がある」と私は考えています」

（2014 年 10 月 26 日東京都美術館で開催したイベント 国際ビエンナーレ協会 (IBA) 会長 Yong-Woo Lee 氏 ）とも評された。

神戸ビエンナーレ 2015 では、テーマを“スキ。[su:ki]”とした。国内外からさまざまな人・もの・

情報を受け入れてきた「軽み」(かるみ)の文化を持つ神戸にふさわしいテーマであると同時に、日本の伝統的な美意識である「数寄」をイメージしたコンセプトであり、個人の好みや感性を存分に発揮した作品を求めた。

今回のビエンナーレでは、これまで積み重ねてきた経験や、例えば鑑賞環境の改善、芸術祭としての質の確保、市民参画の充実といった課題を踏まえ、次のような取り組みを行った。

- ①新たに東遊園地をメイン会場に加え、初めて夜間展示のみの開催とすることで、光や映像演出などとともにまちの魅力を引き出した
- ②メリケンパーク会場では、展示会場として初めて大型テントを使用し、天候による不具合を解消するとともにゆとりある展示を行った
- ③過去に神戸ビエンナーレのコンペティションで入賞した作家を招待し、作品を東遊園地会場およびメリケンパーク会場で展示した
- ④市民参加の取り組みとして、これまでの組織を一新し、神戸ビエンナーレをともにつくりあげ、盛りあげていく市民チーム「神戸ビエンナーレ Cheers」を創設した
- ⑤神戸ビエンナーレ Cheers や市民を対象に「神戸ビエンナーレ学校」を開校し、神戸ビエンナーレや芸術文化、神戸への知見を広める連続講座を行った
- ⑥国際ビエンナーレ協会 (IBA) への加盟や国際会議への参加、連携するアジア最大の光州ビエンナーレや友好都市である中国・天津市などとの国際的な交流を促進した
- ⑦東京での公開シンポジウムや新長田でのプレイベントなど、PR と連携活動の幅を広げた

来場者数は、過去4回の開催を上回る383,339人となった。これは、初めて実施した東遊園地会場での夜間展示や兵庫県立美術館で開催された「ニッポンのマンガ\*アニメ\*ゲーム展」が話題となり、多くの方に来場いただいたこと、しつらいアート展の体験型の作品が注目されるとともにハーバーランド umie や中突堤中央ターミナル(かもめりあ)での作品展示や、JR高架下の独特な雰囲気の中で開催されたいけばな未来展・野外展などで、ビエンナーレを目的としない方にも気軽にアートに触れていただく機会が増えたことなどが要因であると考えられる。こういった市内各所の魅力を活かした会場づくりは、一方で、来場者からの「会場が分散しすぎており、見て回るのがたいへんだった」といった声にもなった。各会場で開場時間が異なったことや東遊園地会場だけが、他イベントとの関係で11月1日で終了となったことは分かりにくかったようであり、周知方法も課題だった。

来場者アンケートでは、「次回も是非来たい」「機会があれば来たい」が前回より増加し、97.9%に上がった。アンケートでは、「新しいアートの世界を知る機会となった」「他の美術館にはない作品を見ることができた」といった声が聞かれた。東遊園地に整然と並べられたコンテナの内外に展示された都心の夜を彩るアート作品の数々を、来場者には堪能していただいたのではないかと。メリケンパーク会場では、大型テントとなったことで、大型のペインティングアートなどコンテナでは展示できなかったサイズの作品の展示が可能となったほか、メディア芸術祭作品、書、工芸、障がい者アートなども、鑑賞しやすい展示となった。また、創作玩具やコミックイラスト、招待作家の体験型の作品など、子どもも楽しめる作品を集約したこと、特に、家族連れで小さな子どもから大人まで、長い時間、ゆとりある展示環境の中でアートを楽しんでいただいている様子が印象的だった。その他にも、横尾忠則現代美術館、BBプラザ美術館での企画展示や、まちなかコンサートやその他イベントまで、さまざまな会場での来場者の反応はまさに、神戸ビエンナーレが目指してきたアートの多様性、多彩性が新たな「かたち」として受け入れられている結果であろう。

ただ、来場者からは、「作品として『美しい』『面白い』『楽しい』ものは多かったが、もう少し『考えることを愉しめる』作品があってもよかったのではないかと」「ビエンナーレにより親近感を持たせる取り組みとしてはよかったが、一方で、そういった取り組みは芸術性を半減させてしまうのではないかと」といった意見もあった。

また、「地元の若い作家の作品も見たい。神戸ゆかりのアーティストももっと発信してほしい」といった声も聞かれたが、全会場を通して、各コンペティションとともに、「神戸力発信部門」のさまざまな企画展示など神戸ゆかりのアーティストが数多く参加できる取り組みを行ったところである。

さらに、今回のビエンナーレのもう一つの大きな成果は、神戸ビエンナーレ Cheers である。神戸ビエンナーレ Cheers は、いわゆるボランティア組織ではなく、自ら考え、活動する市民パートナーとして、広報PR、作品制作補助、来場者へのおもてなしなど、多岐にわたる活動でビエンナーレを支えた。作品ガイドツアーや作品制作補助の際に行った作家インタビューをまとめたカードの配布などは、来場者だけでなく、作家からも好評だった。今回の活動をきっかけとして、今後の芸術文化事業における市民パートナーとしての関わりが期待される。

このように、今回のビエンナーレでの新しい大きな試み（チャレンジ）は、情報発信の強化や来場者サービスの充実などを求める意見もあったものの、アートのさらなる可能性を示すことにもなった。

神戸ビエンナーレは、「アートを活かしたまちづくり」という基本方針のもと、コンペティションを中心に多くの作家の発表の場として、神戸の芸術文化の力を発信するとともに、国際的な芸術祭としての幅広い交流や、市民に芸術文化を身近なものとするなどの成果を生み出し、さらには、神戸のブランド力やイメージ向上にも寄与してきた。こういった神戸ビエンナーレによって生まれた成果が、今後の神戸の芸術文化の振興に活かされるよう期待する。

## VI 企画委員名簿（五十音順）

石原 憲一郎（兵庫県参与、[公財]兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター長）  
越智 裕二郎（[公財]西宮市大谷記念美術館 館長）  
岸田 泰幸（神戸市 市民参画推進局長）  
齊木 崇人（神戸芸術工科大学 学長）  
高須賀 昌志（環境芸術学会 会長）  
武田 政義（[公財]兵庫県芸術文化協会 副会長）  
服部 孝司（株式会社神戸新聞社 特別顧問）  
槇山 淳（日本放送協会 神戸放送局長）  
山田 弘（神戸芸術文化会議 副議長、兵庫・神戸CSの会 会長）  
吉田 泰巳（華道家）

※補職名は、2016年3月31日現在